

山梨県強靱化年次計画2025（概要）

山梨県強靱化年次計画について

- 「山梨県強靱化計画」（計画期間：R6～R10）の着実な推進を図るため、推進計画や施策を明らかにした「**山梨県強靱化年次計画**」を定め、施策の進捗状況を評価する。
- 計画を構成する全251施策のうち、数値化可能な施策について、**重要業績指標（KPI）**を設定し、施策の進捗確認や効果検証を行う、「**PDCAサイクル**」の活用により**施策を着実に推進する**。

重要業績指標(KPI) R6目標に対する評価

- R6目標に対する評価は下記のとおり。

評価可能な重要業績指標	A:達成 進捗率・達成率 100%以上	B:概ね達成 進捗率・達成率 80%以上	C:未達成 進捗率・達成率 80%未満
66	43	9	14

- 計画初年度（R6）の評価を受け、未達成項目については、達成できなかった要因と今後の対策を整理することで、計画最終年度（R10）目標値の達成を目指していく。

【交通途絶対策】

◆ 多重性・代替性（リダンダンシー）を有する災害に強い道路網の整備

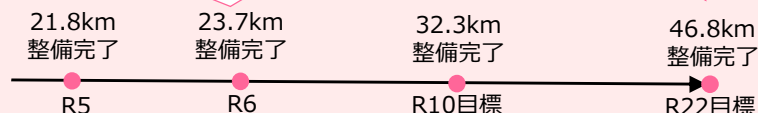
災害時においても迅速な避難救助や救援物資の輸送、拠点施設への確実なアクセスを可能とするために、多重性・代替性（リダンダンシー）を備えた災害に強い道路網を整備。



R6の主な取り組み

- 国道137号（新たな御坂トンネル）の整備 など

R6目標に対する進捗率 105.6%



長野、静岡、東京方面への道路網が強化。県外からの支援を受けられる環境が整備されている。

首都圏や長野、静岡方面への道路網が強化。災害発生時にも安定した人やモノの輸送が可能に。

広域的な幹線道路の寸断に備えたリダンダンシーを有する道路網の整備延長

◆ 無電柱化の推進

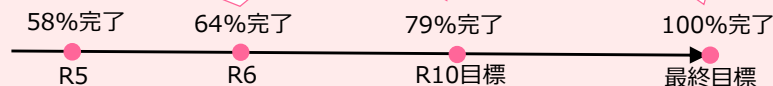
災害時における電柱や電線類の倒壊による通行障害の発生を無くするため、無電柱化を推進。



R6の主な取り組み

- （主）甲府韮崎線（甲府市湯村～千塚工区）の無電柱化 など

R6目標に対する進捗率 200.0%



人口・資産が集中する市街地の緊急輸送道路の機能が概ね確保され、迅速な救急救命活動で人命が守られている。

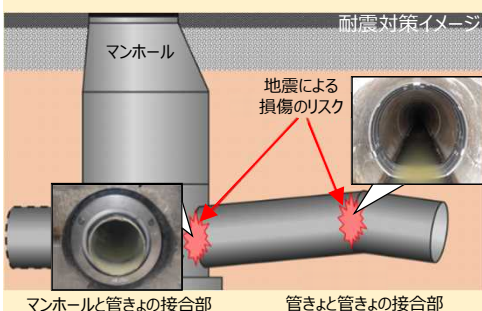
社会的影響が大きい市街地において、災害被害を軽減。救急救命・復旧活動に必要な交通機能が確保されている。

電柱倒壊による道路閉塞のリスクがある市街地において重要拠点を結ぶ緊急輸送道路の無電柱化整備率

【耐震化対策】

◆ 下水道施設の耐震化の推進

災害時に、公衆衛生の悪化など住民生活への影響を最小限に抑えるために、下水処理場や幹線管きよの耐震化を推進し、機能補強を図り、下水道施設の健全性を確保することで、ライフラインの機能を維持。

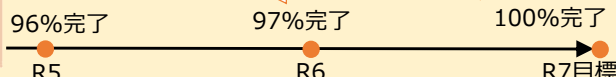


R6の主な取り組み

- 山梨県流域幹線管きよ耐震対策工事
- 山梨県流域下水道処理場施設耐震対策工事 など

R6目標に対する進捗率 100.0%

地震総合対策計画に基いた幹線管きよの耐震化が完了。震災後も全ての流域下水道の排水機能が確保されており汚水が安全に流下し、公衆衛生・水質保全が維持されている。



下水道管路施設の耐震化率

地震

【水害対策】

◆ 洪水被害を防止する河川整備の推進

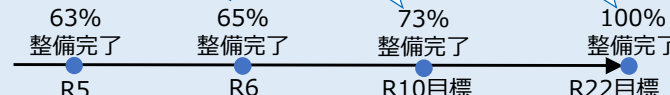
台風や豪雨による洪水を防止し安全に流下させるために、流域内の人口や資産が大きい河川や近年浸水被害が発生している河川など、優先度の高い箇所から順次、流域治水の考え方に基づく河川整備を推進。



R6の主な取り組み

- 鎌田川、貢川、渋川の護岸整備 など

R6目標に対する進捗率 100.0%



河川整備計画における河川の整備率

近年浸水被害が発生した鎌田川や間門川の整備が完了。リニア駅周辺の甲府市南部地域における浸水被害が解消。

河川整備計画に定める重要な河川の本整備が完了。戦後最大洪水等に対応する計画規模程度の降雨に対する安全性が確保。

豪雨・豪雪

全ての災害に関連

【医療提供体制の充実】

◆ 災害時の心のケア支援体制の整備

災害時において、被災者に対し統一的・継続的な心のケアを提供するため、災害拠点精神科病院及び災害派遣精神医療チーム（DPAT）による支援体制を整備。

精神科医師・看護師（保健師）
・業務調整員を基本とする
3～5人体制で編成

- R6の主な取り組み**
- ・ 国の災害派遣精神医療チーム研修に県担当職員が参加
 - ・ 国の先遣隊研修に精神科病院の医師等が参加
 - ・ 協定機関などを対象に、DPATの活動に関する研修を実施
 - ・ 災害拠点精神科病院の整備
 - ・ DPATの資材整備等に対する財政的支援 など

R6目標に対する進捗率 200.0%

甲府・中北・峡東・峡南・富士東部の5圏域において、1圏域あたり4チーム編成。県内全域で、長期にわたりDPATの活動が継続可能。

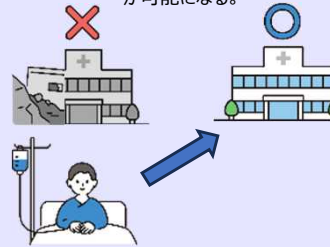


◆ 透析患者の支援体制の整備

人工透析患者を居住地域ごとに把握し、その患者情報を市町村・医療等関係機関・患者等で共有しながら、各々の役割分担を明確にした患者支援体制を整備。

また、平時から県内の透析医療機関の受け入れ可能患者数等を把握し、豪雨・豪雪・地震などの大規模な自然災害時に切れ目ない透析医療を提供。

患者受入調整のネットワークにより、有事の際にも透析患者の治療継続が可能になる。



- R6の主な取り組み**
- ・ 山梨県透析医療危機管理協議会(Y-DCC)の運営支援
 - ・ 患者共有システム(DIEMAS)の導入支援
 - ・ 県の情報伝達訓練にY-DCCが参加
 - ・ 広域調整訓練実施に係る課題整理 など

R6目標に対する進捗率 100.0%

県全域において、患者受入調整のネットワークが構築されており、災害発生時にも人工透析患者への適切な医療提供が可能。



全ての災害に関連

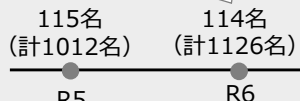
【地域防災力の向上】

◆ 防災リーダーの養成

防災に対する知識、技能を有する人材を早急に育成し、地域における防災力の向上を図るため、市町村と連携した防災士養成講座により防災リーダーを養成する。

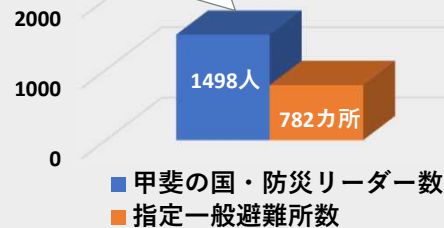
- R6の主な取り組み**
- ・ 甲斐の国・防災リーダー養成講座実施
 - ・ 市町村担当課長会議における防災士養成講座の説明
 - ・ 日本防災士機構から認証 など

R6目標に対する達成率 114.0%



甲斐の国・防災リーダーの養成数

【計画最終年度(R10)の姿】
1498人の防災リーダーを養成。
避難所運営を担う人材（県内の指定一般避難所782カ所）を常時確保。

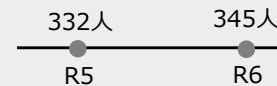


◆ 救急救命士の養成・確保の推進

救急救隊員を救急救命研修所（（一財）救急振興財団）に派遣し、救急救命士を養成・確保することにより、災害時の救急搬送体制の強化を図る。

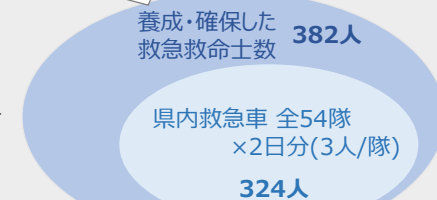
- R6の主な取り組み**
- ・ 救急救命士の国家資格受験資格取得のために必要な研修について、県内消防本部の救急救隊員13人の受講を支援。13人全員が国家試験に合格。

R6目標に対する進捗率 130.0%



養成・確保した救急救命士数

【計画最終年度(R10)の姿】
382人の救急救命士を養成・確保。
県内の救急車全54隊の2日分(324人)を確実に確保することで、災害発生時においても持続可能な救急搬送体制を確立。



ハード・ソフトの両面から着実に施策を推進することで、いかなる自然災害が発生しようとも、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持った安全・安心な山梨県を実現